**第3章　人口**

**概況**

　昭和62年10月１日現在の本府の人口は、874万7242人で、61年10月１日から１年間に3万6405人増加し、増加率は0.42％であった。
　人口増加数は、56年以降、60年を除いて、前年を上回る伸びを示してきたが、62年は、前年より6337人下回る３万6405人の増となり、人口の伸びはやや鈍化した。
　人口増加を出生と死亡の差である自然増加と、転入と転出の差である社会増減の動きでみると、自然増加数は、48年以降一貫して減少を続け、58年にわずかに549人前年を上回っただけで、依然低下傾向が続いており、62年は、前年より1245人減って４万9052人の増加となり、５万人を割った。
　一方、54年を底にその後は回復傾向に｡あった社会減少数は、62年は前年を5092人上回り、1万2647人の減少を示した。
　また、世帯数は、298万4582世帯で、この１年間に3万8077世帯増加し、1.29％の増加率を示した。
　58年以降年々0.02人ずつ減っていた１世帯当たり人員は、62年は前年より0.03人減って、2.93人となった。

**転入と転出**

　住民基本台帳移動報告による本府の転入と転出をみると、昭和61年１月１日から同年12月31日までの１年間の転入者は、前年より3419人上回る21万48人となった。一方、転出者は前年より4273人下回る22万2621人となった。この結果、転出超過数は前年より7692人減り１万2573人となった。

**年齢構造**

　昭和60年国勢調査結果による本府の人口の年齢（３区分）構成をみると、年少人口（0～14歳）は185万179人、老年人口（65歳以上）は71万6579人、生産年齢人口（15～64歳）は609万3737人で、総人口に占める割合は、それぞれ21.3％、8.3％、70.3％となっている。年少人口は、第２次ベビーブーム（昭和46～49年）による出生増で、50年には212万992人となり総人口の25.6％といったん増加したが、その後、出生率の低下により減少に転じ、50～55年には５万3409人減少、55～60年には21万7404人と大幅に減少し、総人口に占める割合も55年は50年より1.2ポイント低下、60年には55年より更に3.0ポイント低下して21.3％となった。一方、老年人口は40年から５年ごとに10万人前後増加しており、総人口に占める割合は着実に拡大し60年には8.3％となっている。また、生産年齢人口は、第１次ベビーブーム（昭和22～24年）に出生した人口が、15歳以上に達した40年に総人口の72.5％を占めたのをピークに、その後、人口は増加しているものの割合は減少傾向にあった。しかし、55～60年には30万人を超える増加となり、60年の総人口に占める割合は、55年より2.0ポイント上昇の70.3％となった。
　次に、５歳階級別人口をみると、0～４歳人口は、50年に第２次ベビーブームによる出生増で81万6605人（総人口の9.9％）に達したが、その後、出生率の低下に伴い減少を続け、60年には51万7246人（同6.0％）となった。

**労働力人口**

　昭和60年国勢調査結果による労働力状態をみると、15歳以上人口681万316人のうち、労働力人口（就業者・完全失業者）は419万7694人で、労働力率（15歳以上人口に占める割合）は61.6％である。一方、経済活動に従事していない家事従事者、通学者、老齢者などの非労働力人口は259万2990人となっている。

**人口動態**

　本府の出生率の推移をみると、第２次世界大戦直後の昭和22年から24年頃までは、人口千人に対して30以上の高率を示していたが、その後は低下を続け、32年に15.2とそれまでの最低を記録した。翌33年から上昇に向かい、42年には23.2となり、以後横ばいの状態が続いていたが、47年からは再び低下傾向を示している。
　昭和61年の本府における出生数は、９万7693人、出生率（人口千対）は11.4 （全国11.4）となっている。これを市町村別にみると、島本町（13.5）、高石市（13.4）、茨木市　（12.8）、吹田市（12.7）などが高く、豊能町・千早赤阪村（6.6）、田尻町（9.0）などが低くなっている。
　一方、本府の死亡率の推移をみると、昭和22年に人口千人に対し14.5であったのが、戦後のめざましい医学の進歩、生活環境の改善等により、46年に｡は5.1にまで低下し、以後横ばいの状態を続けている。
　昭和61年の本府における死亡数は、４万8266人、死亡率（人口千対）は5.7 （全国6.2）となっている。これを市町村別にみると、能勢町（10.4）、岬町（8.9）、田尻町（8.3）などが高く、島本町（3.8）、吹田市・摂津市・茨木市（3.9）、枚方市（4.0）などがある。
　なお、昭和61年の本府における死産数は、5273胎（出産千対の死産率51.2）、婚姻件数は５万5506件（人口千対の婚姻率6.5）、離婚件数は１万4494件（人口千対の離婚率1.70）となっている。
　次に、昭和61年の日本人の平均寿命（0歳の平均余命）は、厚生省の簡易生命表によると、男子の平均寿命は75.23年で前年に比べ0.39年の延びを示し、女子の平均寿命は80.93年で同じく0.47年の延びを示した。
　これを国際的にみると、国により生命表の作成基礎期間等が異なるため、厳密な比較はできないものの、男子73年、女子79年を超えている国は、日本のほかオランダ、アイスランド、スウェーデンとなっている。この中で男子74年、女子80年を超えているのは、日本とアイスランドであり、日本の平均寿命は、男女とも世界のトップグループに入っている。
　なお、昭和60年地域別生命表（厚生省作成）から大阪府の平均寿命をみると、男子74.01年、女子79.84年で、全都道府県中（全国男子74.95年、女子80.75年）男子46位、女子47位となっている。